



MASHIKO POTTERY JAPAN
2021 CATALOG



MASHIKO POTTERY JAPAN
2021 CATALOG

益子焼とは

アトリエ桜野

estudio432

utsuwa-MOKURI

キマノ陶器

清窯

クルクマシコ

Clay Studio2795

健一窯

薄田窯

南窓窯

萩原製陶所

ふくしま窯



益子焼

Mashiko Pottery Japan

益子焼の起源は1852年（江戸時代）、栃木県茂木生まれの大塚啓三郎が茨城県笠間で陶技を学び、益子町に築窯したのが始まりとされます。その4年後には黒羽藩の庇護を受け、窯業地として発展していきました。全国各地から陶工や絵師が益子に入り技術を伝えたと言われます。そうした事実を物語るように、発掘された古い山水土瓶や鉄絵のかげらの中には、雅やかな線で描かれたものや、シャープなフォルムをした器などが垣間見られます。

益子では、壺、水甕、土瓶など日常生活に必要な陶器の生産を行なっていました。良質な粘土が豊富で、東京に比較的近い場所にあったため、やがて日本でも有数の陶器産地になりました。

1924年、濱田庄司（人間国宝）が益子に移住してきました。益子に住む他の職人に影響を与えながら、「用の美」や「日常品の美しさ」を強く認識していた柳宗悦とともに「民藝運動」を推進しました。この後から益子焼は「芸術作品」としての側面を持つようになります。

やがて「益子焼」は日本だけでなく、世界でも広く知られるようになります。このイデオロギーは今日も続いており、益子で生み出される作品は世界中の人々に愛されています。

現在、益子焼の窯元（個人作家も含む）は300軒近く、販売店は50以上あるとされ、伝統技法に囚われない、自由な制作で多種多様な陶器が日々生み出されています。

また、つくり手がそれぞれ自分のスタイルで暮らす「生活の形」も実に魅力的であり、様々なメディアやSNS等でその魅力が発信されています。



山水土瓶



陶土

昔から多くの陶工が良質の粘土を求め益子に移り住んできました。現在では全国各地の粘土を簡単に入手することが可能になりましたが、益子の粘土を好んで使い続ける作家は未だ多くいます。

益子の土は鉄分を少量含み砂分が多く、耐火性が高いのが特長です。

きめが粗く、粘り気が少ない為、成型しやすい土とはいえません。そのため厚みは肉厚にはなりますが、益子らしい素朴で民芸的な魅力を感じさせる作品が生まれます。



益子の伝統釉

昔は流通の便が悪く、荷馬車などを使い運搬していた為、栃木県内で採掘された特有の鉱物を利用して釉薬が作られてきました。

益子の伝統釉薬で使われている特有の素材として芦沼石、大谷津砂、寺山白土が挙げられます。いずれも県内で採掘されたものです。

現在では一部は採掘が出来なくなってしまい、代替の素材を利用していたり、時代の流れで調合が変化している部分もありますが、現在も益子焼伝統の釉薬が受け継がれています。



芦沼石
あしぬまいし



大谷津砂
おおやつすな



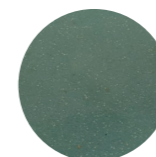
寺山白土
てらやまはくど



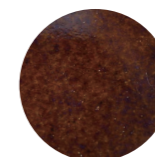
並白釉



糠白釉



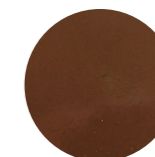
糠青磁釉



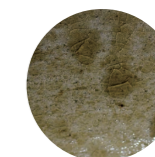
飴釉



黒釉



柿釉



灰釉

益子焼の定義…栃木県芳賀郡益子町及びその周辺地域で生産された陶磁器製の急須・コップ・杯・ぐい呑み・皿・サラダボール・茶わん・徳利・鉢・ビール用のカップ・水差し・湯飲み・飯碗・コーヒーカップ・マグカップ・つぼ・釜飯用の釜と蓋・花瓶・絵皿・飾り壺（H25 商標登録 / 益子焼協同組合）

島田東秋・島田琴絵



sa-m-01
島田東秋
彩色マグカップ
Φ 9 × h 9 cm
¥2400 (+tax)



sa-m-02/03
島田東秋
彩色C&S
C: Φ 10 × h 7
S: Φ 16 × h 3
¥3800 (+tax)



sa-m-04
島田東秋
彩色皿
Φ 26 × h 5
¥4000 (+tax)



sa-k-01
島田琴絵
マグカップ
Φ 10 × h 8 cm
¥2500 (+tax)



sa-k-02
島田琴絵
碗
Φ 12 × h 5.5
¥2300 (+tax)



sa-k-04
島田琴絵
リム鉢
Φ 19.5 × h 6
¥3500 (+tax)

アトリエ桜野は約100年続く窯元です。現在は4人の作家が受け継がれてきたものを活かし、作家がそれぞれの感性で個性ある作品を制作しています。自分たちの食器を使っていただくことで、楽しい気分で食事をしていただいたり、少しでも食卓に彩を添えることが出来れば良いと思っています。

島田東秋

1981 益子町に生まれる
2003 文化服装学院デザイン専攻科 卒業
2006 栃木県窯業技術支援センター 卒業
2006 益子町にて作陶を始める
益子、東京など各地にて作品展を開催

島田琴絵

1979 益子町に生まれる
2003 多摩美術大学工芸学科 陶コース 卒業
2004 八王寺に築窯
2018 益子に窯を移す
益子、東京などにおいて作品展を開催

清水秀輝



es-01
シラカバリース皿
(小)
Φ 17 × h 2 cm
¥1900 (+tax)



es-02
シラカバリース皿
(大)
Φ 22 × h 2.3
¥2700 (+tax)



es-03
シラカバ
オーバル皿
w 23.5 × d 14.5
× h 4
¥2800 (+tax)



es-04
シラカバマグカップ
w 11.5 × d 8 × h 8.5
¥2800 (+tax)

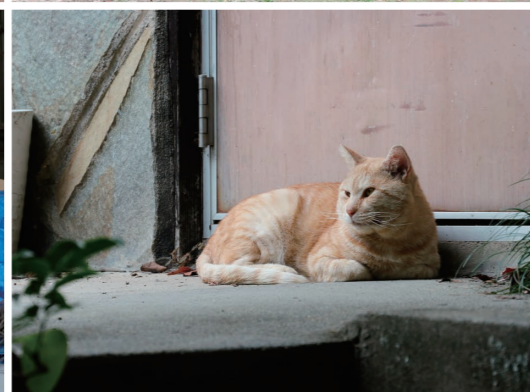
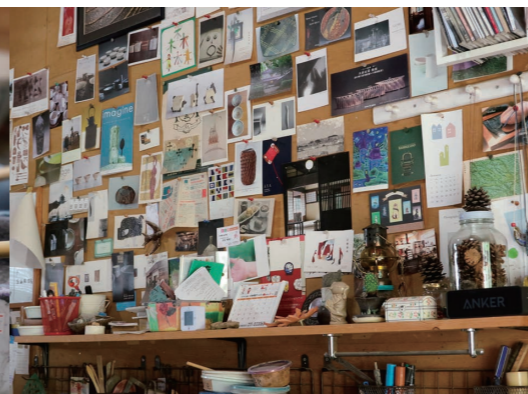


es-05
シラカバプレート
Φ 22 × h 1.8
¥2900 (+tax)

陶土の風合いを生かして食器、時計、照明などのインテリア・オブジェを制作しています。暮らしがちょっと楽しくなる様なものづくりがコンセプトです。使いやすく新しいアイデアを取り入れた作品を作っています。

清水秀輝

1974 千葉県出身
1996 阿佐ヶ谷美術専門学校 プロダクトデザイン科 卒業
1998 藤原陶房に入社
藤原郁三氏に師事
2003 個展・クラフトフェア・陶器市など活動中





ubu_i-01
ubusuna
市松マグカップ
w 11 × d 8.5
× h 10 cm
¥3000 (+tax)



ubu_i-02
ubusuna
市松 C&S
C : w 10 × d 7
× h 7.5
S : Φ 15 × h 2
¥4000 (+tax)



ubu_i-03
ubusuna
市松
ドリッパーセット
D : Φ 13 × h 8.5
S : Φ 9.5 × h 15
¥8000 (+tax)



ubu_i-04
ubusuna
市松スクエア皿
Φ 14.5 × h 1.5
¥2700 (+tax)



ubu_i-05
ubusuna
市松長方皿
w 21 × d 12.5
× h 1.5
¥3000 (+tax)

ubusuna

～その土地で 産まれ 育まれたもの～

産土 (ubusuna) の意味はそのひと (もの) が産まれた土地のこと。益子の土を使い益子に住む人が脈々と受け継いで来た益子焼。そのエッセンスを持ち帰り、暮らしの中で生かしていく。ubusuna をみて益子の空気を思い出してもらえたらうれしいです。

ubusuna は益子の土と釉薬を使ったプロダクトシリーズです。アクセサリー、器、インテリア、ステーションナリーなど、今後も様々な展開を考えています。ご期待下さい。

utsuwa-MOKURI

2018 プロジェクト始動。
2019 益子焼のオリジナルブランド「ubusuna」シリーズの制作を開始。

OEM やオンラインストア販売などを中心に活動中。
代表取締役：栗谷昌克

木間伸哉・ひかり

土や色 (釉薬) も自然の素材を使い自身で制作しています。小さなお子様から年配の方まで手にフィットするやさしい丸いフォルムで仕上げました！日常にやさしく彩りを添える、使いやすい器を届けています。

キマノ陶器

- 2011 木間伸哉 益子窯業指導所 所研究生修了
- 2012 木間 彩 Winbledon College of Art London 卒業
- 2011 共に沖縄県読谷村の横田屋窯 知花實氏に師事 ~ 2018
- 2020 益子町生田目にて「キマノ陶器」開業



kt-01
7寸皿
Φ 21 × h 6 cm
¥3800 (+tax)



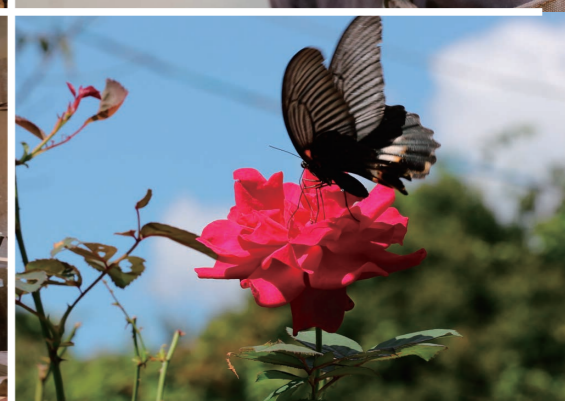
kt-02
7寸皿
Φ 21 × h 6 cm
¥3800 (+tax)



kt-03
ピッチャー
Φ 10 × h 20 cm
¥6400 (+tax)



kt-04
ストレートマグ
Φ 9 × h 8 cm
¥3300 (+tax)



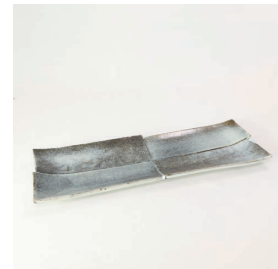
大塚一弘



kg-01
黄土糠赤絵
マグカップ
Φ 8.5 × h 9 cm
¥2700 (+tax)



kg-02
黄土糠赤絵
正角瓶
Φ 8.5 × h 13
¥6000 (+tax)



kg-03
黄土糠長角皿
w 38 × d 13.5
× h 2.5
¥4000 (+tax)



kg-04
白マットプレート
Φ 30.5 × h 2.5
¥9000 (+tax)



kg-05
黒マットプレート
Φ 30.5 × h 2.5
¥9000 (+tax)

1970 地元益子に「清窯」築く
1989 二代目として後継
伝統を守りつつ新たな益子焼を
制作しています。

大塚一弘

- 1989 清窯 二代目として作陶に励む
- 2005 第79国展初入選
- 2006 第80国展奨励賞受賞
- 2010 第64栃木県芸術祭大賞受賞
- 2013 第28栃木県美術祭奨励賞受賞
- 2014 第5期益子焼伝統工芸士認定
- 2015 栃木県美術作家連盟会員
- 2016 国展準会員



km-01
ボウルS(糠白)
Φ 9.5 × h 4cm
¥1000 (+tax)



km-02
ボウルM(鉛釉)
Φ 11.5 × h 4.8
¥1500 (+tax)



km-03
ボウルL(鉛釉)
Φ 13.5 × h 5.5
¥2000 (+tax)



km-04
マグカップ
(益子青磁)
w 11 × d 8 × h 9
¥2000 (+tax)



km-05
C&S(黒釉)
C: w 11.5 × d 8.5
× h 7
S: Φ 14.5 × h 2.5
¥3500 (+tax)



km-06
プレート(糠白)
Φ 24 × h 2
¥3500 (+tax)

クルクマシコとは？
スウェーデン語で陶器を意味する krukmakeri(クルクマケリ)に益子(マシコ)をかけた造語。70年代に作られ愛されたヴィンテージ陶器に再注目し現代の生活の中でも色褪せない機能的な器を復刻。お好みの6アイテムです。色のバリエーションは益子伝統釉の中から人気である益子青磁、糠白、黒釉、鉛釉の4色。



横尾聡・浅田恵美子



cs-01
横尾聡
キャセロール
Φ 21.5 × h 19 cm
¥23000 (+tax)



cs-02
横尾聡
炊飯鍋
Φ 18 × h 20
¥17500 (+tax)



cs-03
横尾聡
平土鍋
Φ 26.5 × h 17
¥23000 (+tax)



cs-05
浅田恵美子
長角盛器
w 27.5 × d 13.5
× h 5
¥6500 (+tax)



cs-04
浅田恵美子
黒マットカップ
Φ 7.5 × h 8
¥2800 (+tax)

益子の里山に工房を構えて40年
余り。ギャラリースペースも開
設しました。
主に日常使いの器を制作し、近
年では耐熱食器も手掛けていま
す。生活の中で食卓を楽しく、
うるおいを与えるような器を
使ってほしいです。
自身の表現として造形作品を製
作しています。

ClayStudio2795

京都出身
1978 益子に築窯
2017 Clay Studio 2795 ギャラ
リー開設

益子を中心に日本各地、韓国、
アメリカ、ヨーロッパ、オース
トラリア、中国（海外）等でグ
ループ展、ワークショップ開催。

大塚雅淑・菜緒子



keg-01
大塚雅淑
ピアジョッキ
w 13 × d 10.5
× h 11.5 cm
¥3600 (+tax)



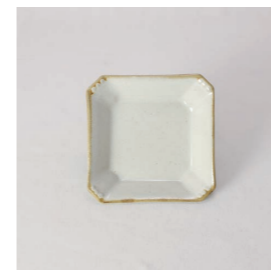
keg-02
大塚雅淑
マグカップ
w 13 × d 9.5
× h 9.5
¥3600 (+tax)



keg-03
大塚雅淑
プレート (大)
Φ 23 × h 2
¥2400 (+tax)



keg-05
大塚菜緒子
オーバル皿 (大)
w 28.2 × d 21.3
× h 2.6
¥4800 (+tax)



keg-06
大塚菜緒子
角切皿
Φ 13.2 × h 2.7
¥1800 (+tax)



keg-07
大塚菜緒子
マグカップ
w 11 × d 8.2
× h 8.9 cm
¥3000 (+tax)

益子の伝統釉と地元の土を使っ
て今の生活に使える器を丁寧
につくっています。
故父健一、雅淑、菜緒子のそれ
ぞれ個性の違った3人の作品が
並びます。

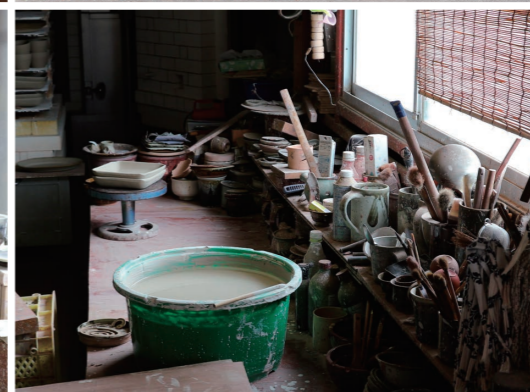
大塚雅淑

1976 益子町に生まれる
1995 栃木県窯業指導所伝習生
1997 父 大塚健一に師事
2014 伝統工芸士認定

大塚菜緒子

1981 茨城県潮来市に生まれる
2000 明星大学日本文化学部
造形芸術学科にて陶芸を
学ぶ
2004 ~大塚健一に師事

現在、益子にて作陶



薄田いと

薄田窯は昭和 45 年、父・薄田浩司が始めた窯元です。それから 50 年、現代の生活に合った、シンプルながらもあたたかみのある器を小さな工房でひとつひとつ手作りしています。敷地には、現在は使ってませんが父の代の登り窯があり、庭にはハーブなどの植物も多く工房を直接訪ねてくれる方も多いです。

薄田いと

益子町生まれ
1999 栃木県立窯業指導所伝習生 終了
2000 同 研究生 終了
2007 日本橋・ギャラリー 開 親子展～2015
2017～ 益子・つかもと作家館 個展
2019 新宿高島屋 グループ展
2019～ 日本橋丸善 グループ展



sg-01
ポタニカル
マグカップ
Φ 9 × h 7.5 cm
¥2600 (+tax)



sg-02
ポタニカル
リム皿
Φ 18 × h 2
¥2700 (+tax)



sg-03
小花柄小鉢
Φ 9 × h 3.5
¥1300 (+tax)



sg-04
四方鉢
Φ 14.5
¥2000 (+tax)



sg-05
八角皿
Φ 15
¥1800 (+tax)

石川雅一・石川圭

日常の生活を豊かに演出する器達を制作しています。

石川雅一

1957 宇都宮に生まれる
1976 栃木県立宇都宮高等学校 卒業
栃木県窯業指導所入所、伝習生となる
1977 同所研修生となる、かたわら村田浩氏の仕事を手伝う
1978 岐阜県久々利大萱の吉田喜彦氏に師事
1983 合田陶器研究所で仕事をする
1985 現在地に仕事場、登り窯を築き独立

石川圭

2011 裏千家学園卒業
2012 濱田晋作、友緒両氏に師事
2015 父・石川雅一のもと作陶開始



ng-01
石川圭
マンガ
マグカップ
w 12 × d 8 ×
h 9 cm
¥2500 (+tax)



ng-02
石川雅一
粉引平碗
Φ 14 × h 6
¥2000 (+tax)



ng-03
石川雅一
粉引小鉢
Φ 14 × h 6
¥1800 (+tax)



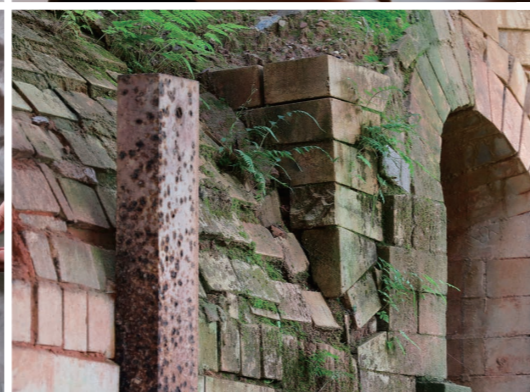
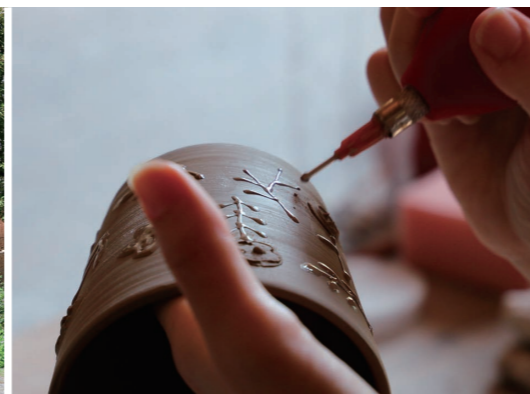
ng-04
石川雅一
粉引丸碗
Φ 14 × h 6
¥1800 (+tax)



ng-05
石川雅一
粉引猪口
Φ 10 × h 7
¥1500 (+tax)



ng-06
石川雅一
粉引小々鉢
Φ 10.5 × h 4.5
¥1500 (+tax)



萩原芳典



hs-01
黒釉マグカップ
w 11 × d 8
× h 8 cm
¥3500 (+tax)



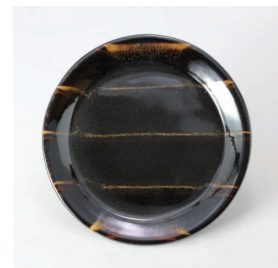
hs-02
黒釉カップ
Φ 8.5 × h 12
¥3500 (+tax)



hs-03
黒釉飯碗
Φ 12 × h 6
¥2300 (+tax)



hs-04
黒釉鉢
Φ 18 × h 6
¥4500 (+tax)



hs-05
黒釉皿
Φ 22.5 × h 2
¥3500 (+tax)

益子の土益子の伝統釉を使い作品を制作しています。
一つ一つの作品を、手を抜かず考えながら制作していきたいと思っています。

萩原芳典

- 1974 栃木県益子町 萩原製陶所5代目として生まれる
- 1994 栃木県窯業指導所 伝習生・研究生修了
- 2011 NHK 鑑賞マニュアル 美の壺に出演
- 2014 益子焼伝統工芸士認定
- 2019 国画会 会員推挙

福島晋平



fg-01
しのぎ飯碗
Φ 12 × h 6 cm
¥2500 (+tax)



fg-02
しのぎ子碗
Φ 11 × h 5
¥2300 (+tax)



fg-03
スープマグ
w 14 × d 12
× h 6
¥3000 (+tax)



fg-04
スープマグ (子)
w 12 × d 11 × h 5
¥2800 (+tax)



fg-05
しのぎリム皿
Φ 18 × h 2
¥3200 (+tax)

普段から使って頂けるような、主張しすぎず、使い勝手の良い日用の器を中心に作っています。益子の伝統的な材料・技法を使い、どのような表現ができるか模索しています。
時代に流されない普遍性を持って、幅広い世代の方に選んで頂けたらと思います。

福島晋平

- 2006 金沢美術工芸大学 彫刻専攻 卒
- 2010 栃木県窯業技術センター 修了
- 2017 国展新人賞 松本クラフトフェア出展
- 2020 英 The Stratford Gallery 出展



陶器の扱いに関して

【陶器は素材の性質上、汚れが染み込みやすいものです】

初めて使う前には米の研ぎ汁で10~15分ほど煮てそのまま冷まし、しっかりと乾燥させてから使うと汚れがしみになりにくいとされています。

これは米のでんぷん質で土の目を埋めておく効果です。必ずしなくてはいけないというものではないですが、お試しください。

【器は“育つもの”】

時間とともに陶器は表面が変化してきます。

その変化も味わいのひとつとして愛でるのも楽しみ方のひとつです。

【日々のメンテナンス】

- ◆使用前にさっと水にくぐらせてから使うと汚れが染み込みにくくなります。
- ◆湿気や油分が器に残ったまま重ねて保管しているとカビが発生する場合があります。使い終わった後はできるだけ早く洗って、しっかり乾燥させてから保管するように心がけてください。
- ◆洗った器をかごに入れる際、食洗機に入れる際はできるだけ優しく扱ってください。特に陶器は磁器にくらべもろい材質で出来ています。重ねるときに縁が当たって欠けてしまう可能性があります。

※電子レンジは問題なくお使いいただけます。

※直火OKと書かれたもの以外は絶対に火にかけないでください。



販売元 / お問い合わせ

有限会社かじ庄 (Kajisho Co., Ltd. est.1955)
代表取締役 渡邊吉人 Yoshito Watanabe
〒321-4227 栃木県芳賀郡益子町東田井 823-7
Mail | sas.227yoshito@gmail.com
Mobile | 090-4052-1061
Fax | 0285-85-5510

発行 | 益子町商工会 (Tel: 0285-72-2398)
構成・撮影 | 株式会社オフィスましこのね



Youtube チャンネル・オフィスましこのね MOVIE
「アトリエ百景」

出品作家のアトリエ風景や作陶動画が観られる Youtube 番組があります。
今後順次アップされていきますので、良かったらご覧になってください。(「アトリエ百景」で検索)